

あくせす news

第 194 号
2018年8月17日
発行者
呉市医師会病院
地域医療福祉連携室
あくせす



立秋を過ぎましたが例年になく猛暑日が続くなか、豪雨災害により被災された方々にお見舞い申し上げますと共に復旧作業にあたられている方々の安全を心よりお祈り申し上げます。

さて、先生方にはいつも **あくせす** をご利用いただき誠にありがとうございます。引き続き一層のご利用・ご紹介をよろしくお願いいたします。



災害医療救護班に参加して

8月8日(水)
天応まちづくりセンター



高倉 有二 (外科部長)
神田 肇 (総務課課長補佐)
中元 世子 (外来主任看護師)

呉市医師会の災害医療救護班として、当院の医師・医師会の事務員・看護師(私)とほうゆう病院の薬剤師の4名で被災地(天応地区)の医療支援を行いました。天応は私の自宅のある地区であり、「微力ながらも何かできることがあれば」という個人的な思いと共に現地に赴きました。

当日は避難生活中の方、自宅の復旧作業中の方、県外からのボランティアの方など10名が外傷・上気道炎・熱中症・膀胱炎などで受診されました。限られた環境下での診察でしたが、医師に話を聞いてもらい、診察を受けたことにより、患者さんたちに安心された様子がみられました。

今回の豪雨災害によって、私の住み慣れた地域は一変しました。想像以上に辛い悲しみや大きな不安などを抱えている方がたくさんおられることを常に感じています。その中で被災者を支える災害医療救護班に参加できたことは私の貴重な経験となりました。

豪雨災害から1ヶ月余り経った今、人と人とのつながりの中で、被災地の方々も復興に向けて前に進んでおられます。これからも自分にできることを考え、被災地の方々が一日も早く平穏な生活を取り戻すことができるよう力を尽くしたいと思います。

中元 世子 (外来主任看護師)

豪雨災害時の状況報告

— 栄養科 —



栄養科 主任
原 七恵

この度の豪雨災害では呉市内の殆どの地域が断水になり、被害を受けられた先生方も多いことと思います。当院は断水被害を免れることができ、月初めで経腸栄養剤の在庫が十分にあったこと、週末で広島業者からの食材が月曜日分まで納入済みであったことにより、交通網が遮断され呉が孤立状態になった数日間も何とか治療食を提供することができました。また、豪雨の翌日に各納品業者に今後の仕入れ状況を確認した際にも「大丈夫です！何とかします！」と心強い返事をくださる業者さんや、1本だけ通じている道を使い5時間かけて納品してくださった業者さんもあり、食材の確保をすることができました。

勤務体制では災害の影響で数日間出勤不可能なスタッフの代わりに休日返上で早く勤務してくれたスタッフもいました。業者さんのご厚意とスタッフの頑張りのお蔭で通常通り患者さんに治療食を提供することができ、本当に感謝しています。

今回の災害を経験して非常用食品を調べたところ、食器不要の物や保存期間が12年間もある飲料水など、断水時に活用できそうなものが多く有ることがわかりました。断水・停電・ガス停止となった場合、どのように患者さんに食事を提供するかを今後の課題にし、「備え有れば憂いなし！」の状態になるべく、現在備蓄の充実を検討しています。

被災後の経過

7/7 (土)	・電気、ガス、水道問題なし ・道路交通網に被害があり呉市は孤立状況
7/8 (日)	・広島から朝食用のパンが届かず備蓄分を使用 ・献立を変更し、食材は現在のところ確保可能
7/9 (月)	・経腸栄養剤は在庫分で現在は対応可能 ・1.5日分の入院食は備蓄有り ・食器洗浄での水の使用を控えるため配膳のお茶は紙コップで対応 ・郷原、小坪のスタッフは出勤不可 ・経腸栄養剤の納品は遅れ気味
7/10 (火)	・東広島県道路が通行可能となる
7/17 (火)	・スタッフ全員出勤可能、災害の影響は解消



「気管支喘息の基礎から最新の話まで」

広島大学病院 呼吸器内科 高橋 広 先生



【気管支喘息の特徴】

気管支喘息は、好酸球を主体として気道に慢性的な炎症をきたす疾患で、咳や喘鳴、呼吸困難といった症状を呈します。これらの症状には日内変動があり、特に夜間や朝方に強くなるといわれています。また気道の炎症は、自覚症状がない時や呼吸機能が正常な時も認められます。

【気管支喘息の治療】

気管支喘息の治療において最も重要な薬剤は吸入ステロイド（±長時間作用型 β 刺激薬；ICS+LABA）です。吸入ステロイドの普及に伴って、喘息による死亡は劇的に減少しました。症状が改善すると吸入を自己中断してしまうことが多いですが、症状がない時も慢性気道炎症が存在するため、症状改善後も吸入ステロイドを継続することが重要です。

吸入ステロイド以外にも様々な薬剤が使用されており、内服薬としてロイコトリエン拮抗薬やテオフィリン徐放製剤、経口ステロイドなどが使用されます。また吸入薬である抗コリン薬も使用可能となっています。

【気管支喘息の最近の話題】

上記治療でもコントロール困難な気管支喘息は重症（難治性）喘息と呼ばれます。そのような患者さんに対して生物学的製剤（抗体治療）や気管支サーモプラスティと呼ばれる新たな治療の有効性が示されています。生物学的製剤にはオマリズマブ（ゾレア）、メポリズマブ（ヌーカラ）、ベンラリスマブ（ファセンラ）の3種類が保険適応となっています。一方気管支サーモプラスティは、気管支鏡を用いて気管支を65℃の高周波エネルギーで通電加熱することで、肥厚した気道平滑筋量を減少させ、気道の収縮を抑制する全く新しい治療法です。重症気管支喘息に対する新たな治療法が選択できるようになっておりますので、コントロール困難な患者さんがいらっしゃいましたら、一度ご相談ください。

高橋先生は、毎週金曜日の午前外来診察を行っておりますので、ご紹介の程よろしくお願いたします。
ご予約はあくせすまでご連絡ください。
■あくせす TEL32-7576■



治療

	治療ステップ1	治療ステップ2	治療ステップ3	治療ステップ4
	吸入ステロイド薬 (低用量)	吸入ステロイド薬 (低～中用量)	吸入ステロイド薬 (中～高用量)	吸入ステロイド薬 (高用量)
長期管理薬	上記で使用できない場合は以下のいずれかを併用 LTRA テオフィリン徐放製剤 ※症状が軽いため必要なし	上記で不十分な場合に以下のいずれかを併用 LABA (配合剤使用可*) LAMA LTRA テオフィリン徐放製剤	上記に下記のいずれか1剤、あるいは複数併用 LTRA テオフィリン徐放製剤 LAMA**	上記に下記の複数併用 LTRA テオフィリン徐放製剤 LAMA** 抗IgE抗体*27 抗IL-5抗体 抗IL-5Rα抗体 経口ステロイド薬*27 気管支サーモプラスティ
追加治療	LTRA以外の抗アレルギー薬*1	LTRA以外の抗アレルギー薬*1	LTRA以外の抗アレルギー薬*1	LTRA以外の抗アレルギー薬*1
発作治療**	吸入SABA	吸入SABA**	吸入SABA**	吸入SABA

ICS: 吸入ステロイド薬, LABA: 長時間作用型β2刺激薬, LAMA: 長時間作用型抗コリン薬, LTRA: ロイコトリエン受容体拮抗薬, SABA: 短時間作用型β2刺激薬
 *1: 抗アレルギー薬は、オマリズマブ（ゾレア）、メポリズマブ（ヌーカラ）、ベンラリスマブ（ファセンラ）の3種類が保険適応となっており、それぞれ異なる作用機序を持つ。必要最小量で慢性化する。必要最小量で慢性化する。
 *2: 経口ステロイド薬は短期間の使用を原則とし、長期使用は慎重に行う。長期使用による副作用（糖尿病、高血圧、骨粗鬆症等）に注意する。
 *3: 経口ステロイド薬は短期間の使用を原則とし、長期使用は慎重に行う。長期使用による副作用（糖尿病、高血圧、骨粗鬆症等）に注意する。
 *4: 経口ステロイド薬の使用は、その副作用の発生率に注意する。長期使用による副作用（糖尿病、高血圧、骨粗鬆症等）に注意する。
 *5: テオフィリン徐放製剤は、その副作用の発生率に注意する。長期使用による副作用（糖尿病、高血圧、骨粗鬆症等）に注意する。
 *6: テオフィリン徐放製剤は、その副作用の発生率に注意する。長期使用による副作用（糖尿病、高血圧、骨粗鬆症等）に注意する。
 *7: LABA, LTRAと併用に注意してコントロールが不良の場合に併用する。
 *8: 呼吸器科ガイドライン2016での変更予定。

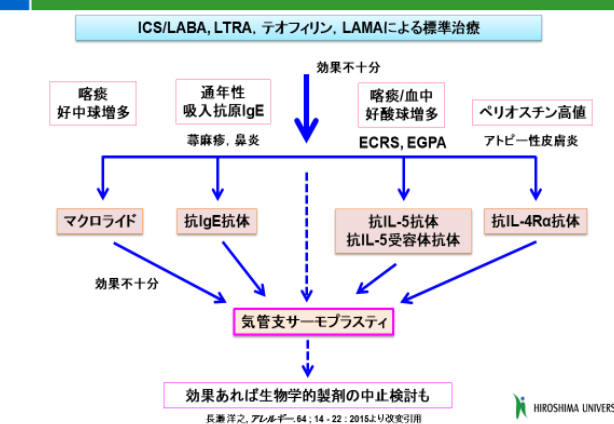
長期管理薬

①吸入ステロイド薬(ICS)+長時間作用型β刺激薬(LABA)(ICS/LABA)
気管支喘息の治療において最も重要な薬剤である。コントロールがよければICS単剤に切り替えも可。症状が改善しても吸入を継続することが重要である。

アドエア	シムビコート	フルティフォーム	レルベア
フルチカゾン/サルメテロール 吸入器具: p-MDI 平均粒子径: 4.4µm	ブデニド/ホルモテロール 吸入器具: タービューハイパー 平均粒子径: 2.2~2.4µm	フルチカゾン/ホルモテロール 吸入器具: p-MDI 平均粒子径: 3.1~3.4µm	フルチカゾン/ビランテロール 吸入器具: エリプタ 平均粒子径: 4.0µm
1日2回 1回1~2吸入 吸入SABA	1日2回 1回1~4吸入 SMART療法	1日2回 1回1吸入 吸入SABA	1日1回 1回1吸入 吸入SABA

* 吸入指導の徹底が大事!!

重症喘息に対する治療指針



★7月1日～7月31日★

※届出日数(地域包括ケア病棟、障害者病棟等を除く)

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数※	紹介外来患者数	医療相談患者数
114.1人	55.0%	18.5日	65人	115人



呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 あくせす

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通) 院長 中塚 博文 MSW 森下 香織 MSW 菅原 淳子 MSW 萩山 直子
FAX (0823) 32-7507 室長 中間 千穂 事務 中野 浩美 事務 石坂 梨恵